

「簡明漢語（やさしい中国語）」が 果たす役割について

—コロナ禍の中華人民共和国における言語政策—

The Role of “Easy Chinese” in the People's Republic of China: Language Policy Perspective During the COVID-19 Pandemic

藤井 久美子

1. はじめに
2. 日本の先行研究にみる「簡明漢語」
 - (1) 包 (2020)
 - (2) 小田 (2021)
 - (3) 日本側からの「簡明漢語」に関する先行研究分析から明らかになること
3. 「簡明漢語」と「やさしい中国語」
 - (1) 「やさしい日本語」の中国語訳
 - (2) 「簡明漢語」の起源
 - (3) 「やさしい中国語」としての「簡明漢語」
4. 「疫情防控“简明汉语”（「疫病を防止制御する『簡明漢語』」）
 - (1) 「やさしい日本語」の中国語版：「簡明漢語」
 - (2) 「簡明漢語（や）」の具体的内容
5. おわりに

1. はじめに

2020年1月ごろから、中華人民共和国にある武漢では未知の感染症が拡大するようになっていた。その後、世界で広く知られるようになった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）である。

本感染症拡大に伴い、中国国内では、同年3月12日に「疫情防控“简明汉语”（「疫病を防止制御する『簡明漢語』」）が公布された（以下、本稿では「簡明漢語」と称する）。「簡明漢語」は、名称に詳細に示される通り、「疫病を防止制御する」ための「やさしい中国語」のことである。

日本では、「やさしい〇〇語」と言えば、まず「やさしい日本語」が想起される。1995年に阪神・淡路大震災が発生した際、日本語も英語も不自由な外国人は情報弱者として多重被災するようなことが起きた。そこで、こうした問題を契機に言語学の研究者たちが議論や意見交換を重ねて生まれたのが「やさしい日本語」である。災害時に日本語による情報提供を可能にするために考案されたことから、当初は「減災のための『やさしい日本語』」と呼ばれることもあった。

この「やさしい日本語」を参考に、コロナ禍の中華人民共和国で考案されたの

が「簡明漢語」である。中国には、多様な漢語方言区に加えて、多種の少数民族言語があり、さらには外国人も多数居住するなど、多言語環境が存在している。こうした中で、災害時の言語サービスとして日本にならって考案された。

本稿では、「簡明漢語」がコロナ禍の中華人民共和国でどのように考案され、広められることになったのかについて、言語政策的観点から考察を試みたい。

2. 日本の先行研究にみる「簡明漢語」

2020年以降、「簡明漢語」の考案、普及に関する議論をまとめた論稿が中国国内で複数公開され、それらは日本側からも検討、考察された。中でも本稿で取り上げておきたいのは、包（2020）^①と小田（2021）^②である。まずはこれらの先行研究で述べられている論点について確認しておきたい。

(1) 包（2020）

包（2020）は、以下のように述べている。

中国では、コロナ禍以前には、日本の「やさしい日本語」のような政府による組織的な災害言語対策はほぼ実施されていなかった。但し、2012年12月には、中国教育部・国家言語委員会が「国家中長期言語文字事業改革および発展企画概要（2012-2020）」を公表し、大規模国際イベントと並んで災害救援などのために支援サービス能力を向上させることを示した。また、2016年8月にも、同委員会では「国家言語文字事業「十三五」発展計画」を公表し、「言語災害サービスと援助メカニズム」に関して明確な規定を定めた。とはいえ、中国では、「言語サービス」としては翻訳や商業ベースのものへの関心が主で、災害言語サービスについては、実質的に事前の対策は取られていなかったという。そのため、想定外のコロナ禍の医療現場ではさまざまな言語障害が発生してしまった。しかし、結果的には、コロナ禍が災害言語サービスの実施や研究を急速に進展させることになり、新たな展開を見せ始めることにつながったのである。

コロナ禍の状況が急速に厳しくなるにつれ、中国でもこれまでは考えられてこなかった「災害言語サービス」に強い関心が集まるようになり、コロナ禍での言語対策についての研究（論文）も多数発表されるようになった。そこで論点は、災害言語サービスをどうするかということである。例えば、多様な漢語方言区で医療サービスを有効に機能させるためには言語の壁は非常に大きかったという。包は発生源と言われる武漢を含む地域について、具体的に次のような例を挙げた。

西南官話方言に含まれる武漢・荊州・宜昌・襄陽の四つの地域の方言、江淮官話方言に含まれる孝感・黄石・鄂州・黄冈の四つの地域の方言、贛方言に含まれる咸寧地域の方言、このいくつかの地域だけでも九種類の方言がある。全国から集められた医療チームは湖北省のいろいろな地域に派遣されたが、医療スタッフは標準中国語を話すため、患者との意思疎通に障害が生じ、コミュニケーションを取ることが困難であった。（103頁）

そこで、これらの地域では、「看護師と患者とのコミュニケーションブック（『護患溝通本』全20頁）」や『武漢方言実用ハンドブック（『国家援鄂医療隊武漢方言

実用手冊』』とその音声資料などが作成された。前者は、ボディーランゲージや冊子内の関連語句や文を患者に見せて意思疎通を図ろうとし、後者は日常用語について武漢方言と標準語を対照できるようにして相互理解が可能になることを目指した。

他の例としては学者らによる災害言語対策も紹介している。北京語言大学言語資源先端イノベーションセンター責任者の李宇明は「戦疫言語サービス団」を組織し、標準語と方言とを対照可能とする漢語話者向けのサービスに加え、外国人や留学生に向けて、「新型コロナウイルス感染症予防対策外国語通」を41ヶ国語で作成したりした。このチームでの取組がのちに「簡明漢語」の提供につながったのである。

包は、上記の他に政府が行った災害言語対策についても言及しているが、結論としては、今回は、スピーディーかつ多様な災害言語サービスを構築できたものの、コロナ禍以前のもっと早い段階で実質を伴う成果があれば、医療従事者の負担を軽減したり、スムーズな外国人対応が可能であったりしたであろうと述べた。

(2) 小田 (2021)

小田は、論稿の中で、コロナ禍で発行された各種ハンドブック類を先行研究も利用しながら詳細に検討、考察した。

例えば、武漢市が含まれる湖北省で作成された「疫病流行に抵抗するための湖北方言用語集 (抗撃疫情湖北方言通)」には、WeChat (微信) 版を含め、ネット上で使用可能な7バージョンあることを明らかにし、それぞれの概要も示した。スマートフォンを利用した場合、具体的にどのような画面が表示されるのかも、自身が試してみた画面のスクリーンショットを示しながら明らかにしている。包(2020)が紹介した41ヶ国語からなる「新型コロナウイルス感染症予防対策外国語通」(小田は「疫病予防制御のための外国語用語集」と称す)も、その41すべての言語名を明示した。

この「疫病予防制御のための外国語用語集」WeChat版について、小田自身の操作体験を述べた箇所からは、中華人民共和国における、コロナ禍の言語政策の一つの特徴を明らかにすることができる。

筆者が微信 (WeChat) 版の「外国語用語集」を操作してみると、…新型コロナウイルス感染症対策の外国語と普通話のフレーズを確認することができ、クリックすると音声聞くことができる仕様になっていた。ただし、音声に関しては、外国語のみであり、普通話は収録されていない。…当局が外国人に周知したい内容には一定の効果・意義が認められるものの、…外国人が中国の医師や看護師に伝えたい内容は、画面に示された普通話のフレーズを相手に見せる必要があり、外国語の音声を収録した意味はあまりないようにも思われる。(94-95頁)

つまり、当局からの発信の効果には有効性が認められるが、利用者側からは大きな利用価値はないということである。この点は中国で提供される言語サービスの特徴として留意しておくべきであろう。

小田が具体的な検討対象として最後に取り上げているのが、「簡明漢語」である。小田は、「簡明漢語」が意図するところの「やさしい中国語」の文法と語彙の基準を日本語訳によって説明し、また、実際の文面についても訳例を示して解説した。小田によると、「簡明漢語」は多様なメディアによる展開はなされていないという。

小田がハンドブック類の作成から公布・利用状況までを詳細に考察した結果、結論として述べているのは以下のような点である。包（2020）も述べたように、中国では災害言語サービスはコロナ禍以前から検討されていたものの、棚上げ状態が続いていた。それが、コロナ禍により、有志の大きな力を得て急遽短期間のうちに進められることになっただけなのである。つまり、政府そのものが重視する言語政策はそれ以前と大きく変わるものではなく、国家通用言語文字（普通話や簡体字）の普及・拡大が継続的に重要視されており、それが強い国を実現することにつながる、と考えていたのである。しかし、小田は、応急言語サービスに関する事業の展開次第では、中国の言語政策状況を一変させうることもありうるという。但し、その場合でも、言語権を含め、諸権利の保障という概念を中国の言語政策がどこまで見出しうるかは今後も注視する必要があるであろうと統括した。

(3) 日本側からの「簡明漢語」に関する先行研究分析から明らかになること

包（2020）、小田（2021）共に述べているのは、中国が今回急遽進めることになった災害言語サービス、応急言語サービスは、もっと早い時期から検討されていたものだが、より重要な言語政策課題に対応するため、先延ばしにされていたということである。しかし、2020年早春以降の感染症拡大に伴い、急ぎ対応する必要が生じた。そこで、取りかかった主体は、実際に現場に臨まざるをえなかった医師・看護師や関係者である。結果的には、ある程度の成果が出た時点でそれは公に取り込まれ、政府の対応策となった。とはいえ、その主体は各地域にとどまっており、国家レベルの事業とはなりえていない。そのせいであろうか、小田が指摘するように、言語を権利保障という概念で捉えるレベルまでに政府の政策を変えうるものとなるかどうかは現時点では不明である。

以上のように、今回、「簡明漢語」を含む緊急時の言語サービスに関して、日本における先行研究の分析から明らかになったのは、一つには、中国ではコロナ禍以前のもっと早い時期から検討はされていたものの、具体的な進展はなかったということである。そして、二つ目には、政府からの発信には有効性を示すが、下（利用者）にとってどの程度有用かについてはまだ検討を要する、ということである。この点を指摘しておきたい。

3. 「簡明漢語」と「やさしい中国語」

本節では、「簡明漢語」を「やさしい中国語」と呼んでよいのか、呼べるのかについて検討したい。

(1) 「やさしい日本語」の中国語訳

「簡明漢語」は、作成にあたって「やさしい日本語」を参考にしたというが、中国では「やさしい日本語」にどのような訳語が当てられているのであろうか。

「簡明漢語」に関する近年の論文からみると、陳林俊（2020）、汲伝波・李宇明（2020）、汲伝波（2020）はいずれも「簡明日語」という訳語を用いている。趙世挙（2020）と王娟・曲志强（2020）は「簡易日語」とした。他に、「簡化的日語」という表現も見られるが、こちらはまとまった術語というよりは「簡易化された日本語」というような語句としての表現であろう。

では、「やさしい日本語」が「簡明漢語」「簡明日語」であるならば、「簡明漢語」は「やさしい中国語」と呼んでよいのであろうか。この点について次項で考えてみたい。

(2) 「簡明漢語」の起源

そもそも、「簡明漢語」の「簡明」とはどのような意味であろうか。一般的に学習者に使用される中日辞典・中英辞典では、「易しい」「簡潔」というような意味が示されている。中国語の「簡明」には日本語の「優しい」という意味はない。

次に「簡明漢語」を CNKI（中国学術情報オンラインシステム）で検索してみると、最初に出てくるのは《簡明汉语字典》（『簡明漢語字典』）を紹介した 1980 年の雑誌記事であった⁹⁾。この『簡明漢語字典』は元は 1978 年に『工農兵字典』として出版されたもので、元々の字書名や内容の性質などを考えると、この時代には「簡明漢語」とは学びやすさを重視した漢語を指していたと考えられる。

(3) 「やさしい中国語」としての「簡明漢語」

そもそも、「簡明漢語」は中国ではどのような語彙で捉えられていたのであろうか。キーワードとして挙げられるのは「应急语言（応急言語）」である。趙（2020）は「应急语言（応急言語）」とは「备急语言（急場に備える言語）」「应急处置语言（応急処置のための言語）」「善后语言（急場をしのいだ後の言語）」であると述べ、ここで「簡明漢語」には、「应急语言（応急言語）」という新たな意味が加えられた。

その後、「簡明漢語」の開発に多大な貢献をしたと思われるのが李宇明である。李は『人民日報』2020 年 4 月 8 日版で「应急语言（応急言語）サービスは無視できない（重要である）」ものであると述べ、「簡明漢語」と「应急语言（応急言語）」とは同義であることを示した。急場をしのぐために必要とされる「応急言語」は、「やさしい日本語」が生まれた時と同じく、災害ともいえるコロナ禍にあえぐ中国において重要なものと考えられたのであろう。こうして「簡明漢語」は「やさしい中国語」と呼んでもよい性質を持ったと言える。

但し、CNKI で「簡明漢語」を検索した結果の中から、2020 年当時、「応急言語」に相当する意味での「簡明漢語」を含むものは汲・李（2020）の 1 件のみである。2023 年になると李木子（2023）が増えるが、それでも災害や応急対応の言

語サービスの名称としてはまだ一般的であるとは言えない。

4. 「疫情防控“简明汉语”（「疫病を防止制御する『簡明漢語』）」

(1) 「やさしい日本語」の中国版：「簡明漢語」

本項では、「やさしい中国語」としての「簡明漢語」が研究制定された経緯を汲伝波（2020）から明らかにしたい。


「簡明漢語」の制定までには、「やさしい日本語」に加え、“Plain English”なども研究されたが、やさしい日本語の中で最も影響力を持つものとしては「減災日本語（減災のためのやさしい日本語）」が挙げられる。地震などの自然災害が発生した時に「応急」「救援」機能を果たすということで、今回のコロナ対応にも最も適合しているとみなされた。

また、「簡明漢語」という呼称が定まるまでにはいくつかの候補が存在した。例えば、「簡易漢語」や「平易漢語」、また、「簡明漢語」「簡明普通話」などの案も出された。しかし、結果的には、「簡明」という語が選ばれたが、それは人々が“簡明”という語に対して持つ「簡潔、明瞭（“簡潔、明了”）」という感覚を尊重したからであるという。

では、「疫病を防止制御する『簡明漢語』」（以下では、改めて「簡明漢語（や）」とする…「や」は「やさしい中国語」の略）は具体的にはどのようなものかといえ、例えば、HSK（汉语水平考試 Hànyǔ shuǐpíng kǎoshì）4級レベル以上の在中外国人向けで、語彙数は1200語である。これは、「減災のためのやさしい日本語」が日本語初級レベル（1500語）であることになったものである。日本語の能力試験ならば、旧3級、現N4にあたる。その後、「3週間近く日夜奮闘し（原文訳）」世界初の「簡明漢語（や）」を完成させたという。

(2) 「簡明漢語（や）」の具体的内容

2020年3月12日⁽⁴⁾に北京語言大学語言資源高精尖創新中心（北京語言大学語言資源高度精密先端創造センター）と北京大学對外漢語教育学院からネット上で発表されたのが「簡明漢語（や）」である。

 <p>疫情防控“简明汉语”</p> <p>北京语言大学语言资源高精尖创新中心 北京大学对外汉语教育学院 2020年3月5日</p>	<p>目 录</p> <p>一、《疫情防控“简明汉语”》研制简介……………2</p> <p>二、《疫情防控“简明汉语”》研制标准……………3</p> <p> (一) 词汇……………3</p> <p> (二) 语法……………4</p> <p>三、《疫情防控“简明汉语”》示例……………5</p> <p> (一) 不同的人减少感染新型冠状病毒的方法……………6</p> <p> (二) 使用口罩的方法……………12</p> <p> (三) 什么是新冠肺炎……………15</p> <p> (四) 街道（村镇）社区防疫宣传……………17</p> <p> (五) 疫情信息示例……………19</p> <p>四、 疫情用词表……………34</p> <p>五、 项目研制成员……………43</p> <p style="text-align: center;">1</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目次（1 ページ）を含む 43 ページからなり、研究制定プロセスを説明する箇所では、HSK 4 級（1200 語程度）レベル以上の中国在住外国人のために、「減災日語（減災のためのやさしい日本語）」の開発過程を参考にしたと書かれている。「词汇（語彙）」と「语法（文法）」の研究制定基準では、例えば、方言は共通語に、単音節語は二音節語以上のわかりやすい表現にするなど、また、できるだけ短い文章でわかりやすく示すというような方針が示されている。5 ページから 33 ページまでは、以下のように、在住外国人向けの文書の具体例が掲載され（ここでは 16 ページを例に挙げる）、34 ページ以降は必要な語彙がピンインと英語訳で示されている。

简明汉语	超纲词	原始文本
<p>五、传播方法</p> <p>唾沫、接触，还可能有空气、粪便。</p>	<p>传播 chuánbō：</p> <p>大范围流行</p>	<p>五、新型冠状病毒是如何传播的？</p> <p>呼吸道飞沫传播、接触传播，气溶胶传播和粪-口（消化道）等传播途径尚待进一步明确。</p>

上記の具体例からわかるのは、右側のオリジナル文書（「原始文本」）を「簡明漢語（や）」にした場合を左側の「簡明汉语」の欄で示し、真ん中の「超纲词（発展語彙）」では、やや難しいと思われる語彙を別の言葉を用いて説明している。

これを見ると、日本人の成人であれば一般的には漢字が理解できるので、右側

のオリジナル文書でも「呼吸」「接触」「消化」などの言葉からいくらかは意味がつかめるかもしれない。今回の「簡明漢語（や）」は、HSK 4 級（1200 語程度）以上を対象としているというが、これはネイティブと比較的流暢にコミュニケーションが取れるというレベルである。開発者たちによると日本語能力試験の N4 レベル程度以上であるとされるが⁶⁾、HSK の 4 級はもう少し難しいであろう。日本語能力試験と単純な比較はできないにしても、4 級レベルに達するのは非漢字圏出身者であればかなり難しいのではないだろうか。「やさしい日本語」の実践の中には公文書の書き換えがあるが、「やさしい（簡明）●●語」が公文書をやさしくするのに役立つ、役立てるという方向性を持つことは、今回の「簡明漢語（や）」にも受け継がれているようである。

但し、中国の国家政策は基本的にはすべて現国家体制の安定的持続を目的としており、この点は「簡明漢語（や）」からもうかがえる。以下は 18 ページであるが、町や村に対しての防疫宣伝の例示の箇所では 42 項目ある「原始文書（オリジナル文書）」が「簡明漢語（や）」では 16 項目にまで減らされた。項目が減ったことで、オリジナル文書では繰り返し述べられていた「換気」や「マスクの装着」の指示回数が少なくなった。中でも、15 項目目の「不相信假消息，不说假消息。（フェイクニュースを信じたり、広めたりしないこと）」に続く 16 項目（最終項目）こそ注目に値する。「相信国家，不要紧张。（国家を信頼し、ストレスを感じないこと）」という記述があり、これはオリジナル文書 42 項目の中にはないもので、「簡明漢語（や）」とオリジナル文書の内容を比べてみないことには気づかない。つまり、ここからは、「簡明漢語（や）」を利用して、在住外国人に対して国家政策をしみこませる意図があることがうかがえるのである。

15. 不相信假消息，不说假消息。

16. 相信国家，不要紧张。

明行為

18. 消毒杀菌 赶走病毒

このように、中華人民共和国の場合、「簡明漢語（や）」は「やさしさ」を利用して国家による支配や国家語の普及を推進しているのである。

すでに、2 (2) ~ (3) で指摘したように、「簡明漢語（や）」は、当局からの発信の効果には有効性が認められるが、利用者側からは大きな利用価値はないということが考えられた。これは、本項で指摘した点と合わせて、一方通行とまでは言わないまでも、中国の言語政策において「簡明漢語（や）」にみられるように、政府側からは強く作用するにも関わらず、もう一方、つまり下（利用者）からの力は小さいという意味で対等な双方向とは言えない。この点は今後も課題として残るであろう。

5. おわりに

以上、中華人民共和国でコロナ禍の 2020 年に考案された「簡明漢語（や）」について考察を行った。

中国では、コロナ禍以前から災害対応、応急対応のための言語サービスが検討

されてきたが、国家言語文字の普及という一層優先度の高い言語政策のために後回しにされてきた。それが、コロナ禍により一気に必要性が高まり、ボランティアの協力なども得て、一気に進展したのである。各種メディアを活用したのも多数誕生した。しかし、それらは、例えば、コロナウイルス感染者と直接接する医療従事者であったり、感染が拡大する地域でまさに必要に迫られて使わざるを得なかったりする人々によって推進されただけで、国家が大きく後押しをしたわけでない。「簡明漢語(や)」でさえ、教育部のサイトで正式発表されたとはいえ、資料の表紙には国家機関は記されていない。

「やさしい日本語」を含め「やさしい……語」は、それぞれの国家の中でどのように位置づけられ、どのような役割を与えられるのかはまさに言語政策である。言語権のような言語保障が外国人を含めたどこまでに担保されるのかも含めて、次には「やさしい日本語」との比較に取り組みたいと考える。

-
- (1) 包 (2020)。
 (2) 小田 (2021)。
 (3) 維珠 (1980)。
 (4) 資料には「3月5日」と書かれているが、3月12日に教育部(日本の文部科学省に相当)のサイトで正式に発表された。
 (5) 汲・李(2020:317)によれば、HSKの4級は「減災のためのやさしい日本語」ができた当時の日本語能力試験の3級、現在の日本語能力試験ではN4に相当するという。しかし、これはN4の語彙数が1500語程度という点だけを見ており、実際には両者のレベルは同等とはいえないと考える。

参考文献

- 小田格 (2021). 「中華人民共和国における新型コロナウイルス感染症対策の応急言語サービスについて」『ことばと社会』 23, 89-109.
- 包聯群 (2020). 「新型コロナウイルス感染症流行期における中国の言語対策」『社会言語学』 20, 101-111
- 陈林俊 (2020). 「当代日本灾害应急语言服务研究」『语言文字应用』 第2期, 69-78
- 汲传波・李宇明 (2020). 「疫情防控简明汉语的研制及其若干思考」『世界汉语教学』 34(3), 311-322
- 汲传波 (2020). 「借鉴国际先进经验 研制应急语言产品《疫情防控“简明汉语”》研制回顾」『语言文字报』 2020.6.3, 1-2
- 李木子 (2023). 「灾害应急需求下的“简明汉语”信息制作研究」『汉字文化』 第12期(総第336期), 22-24
- 李宇明 (2020). 「“应急语言服务”不能忽视」『人民日报』 2020.4.8
- 王娟・曲志强 (2020). 「简易日语与救灾应急」『语言战略研究』 第5期(総第29期), 57-66
- 维珠 (1980) 「《简明汉语字典》将出版」『辞书研究』 3期, 180

赵世举 (2020). 「主持人语：应急语言研究的三大视域」『语言战略研究』第 5 期
(総第 29 期), 11-12

「疫情防控“简明汉语”」（「疫病を防止制御する『簡明漢語』」

http://www.moe.gov.cn/s78/A19/A19_ztzt/ztzt_yywfzfw/yingjifw/202003/W020200312378770797705.pdf (2024 年 1 月 5 日参照)

日本語能力試験新旧レベル対照表

<https://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf> (2024 年 1 月 5 日参照)

HSK (汉语水平考试) 日本語 HP <https://www.hskj.jp/> (2024 年 1 月 5 日参照)